

気象界消息

1. 台風第16号—第19号

台風第16号 (Della) はマリアナ諸島東方海上に8月17日頃発生、西北西に進み沖の鳥島の北で北北西に進路を変え、29日15時頃四国土佐湾に上陸、中国を横切ったのち日本海を北北東に進路、樺太を通過、オホーツク海北部で温帯低気圧に化した。最低気圧は四国南方海上で968mbに達し、40名以上の死者を出した。

台風17号 (Elaine) は台湾南西海上に8月18日頃発生、台湾の南側を通過して東方に抜けたのち、23日頃西に向きを変え、23日夜台湾を横断し、大陸に入り、温帯化した。最低気圧は994mbに達した。

台風第18号 (Faye) は8月23日頃マーカス島の南東海上で発生、初め北北東に向ったが、25日頃マーカス島の東北東海上で急に進路を変え、マーカス島の南を通り、ちょうど30°N 150°E辺を中心とする大きな円を描き、マーカス島の北東海上で消滅した。30日18Zに銚子沖100km位を通過した。未だかつてない珍しい径路を示した。

台風第19号 (名なし) は31日頃台湾東方海上で発生、北北東に進み、2日九州北部に上陸、山口県の西端をか

すめたのち消滅した。豆台風で、初めは天気図でも認めにくいものであったが、レーダーで確認され、九州西部には局所的に大雨を降らした。

2. バンジャブに大洪水

南バンジャブ (Southern Punjab) で8月末5日間にわたって雨が降り、8月31日には数千エーカーが洪水となり、50名以上の死者が出た。

3. 嘉納氏渡米

本学会会員の嘉納宗靖氏 (研究所高層気象研究部) はフォード留学資金により、アメリカのカリフォルニア大学で約1年間「日射の研究」を行なうため、1960年9月5日出発された。

第4回 常任理事会議事録

日時 昭和35年9月17日 (土) 11.00~14.00

場所 神田一ツ橋 学生会館

出席者 桜庭・根本・岸保・有住・松本・磯野・今井・正野・神山・吉武・淵 各理事 (順序不同)

決議

1. 国際電波科学会議組織委員会委員候補者として当学会からは畠山久尚氏を推せんすることとなった。
2. 秋季大会の会場は産経会館とし、大会委員長を小平吉男氏にお願いすることとなった。
3. 同大会でエリアッセン氏に特別講演をお願いすることとし、詳細同氏に連絡することとなった。
4. 岡田賞に関しては審査委員会の報告に基き全理事にはかることとなった。
5. 11月29日、30日名古屋において関東、中部地区気象研究会を東京管区気象台と共催で開催することとなった。
6. 風のシンポジウム連絡協議会の事務所を当学会内に置き、同協議会委員として当学会からは今井理事、

竹内 (清) 委員があたることとなった。

7. 国際的に学术交流を円滑に計るため、「国際学術交流委員会」を設け、下記の7氏が委員として当ることとなった。
松本、磯野、岸保、神山、根本 各理事
荒川隆夫、藤田敏夫 各会員
8. 定款改正については、桜庭、有住、松本、根本の4理事が案を作成することとなった。
9. サハラ砂漠の原爆禁止に関する原文 (仏文) については諸般の事情からもう一度吟味して、そえ書をつけて出すこととなった。
10. 日本学術会議地球物理学研究連絡委員会 で文部省研究費をきめる場合の参考として、当学会としては重要研究課題に下記のものをとりあげることとなった。
1. 降雨機構および気象人工制御の研究
2. 台風の研究
3. 高層大気の研究